

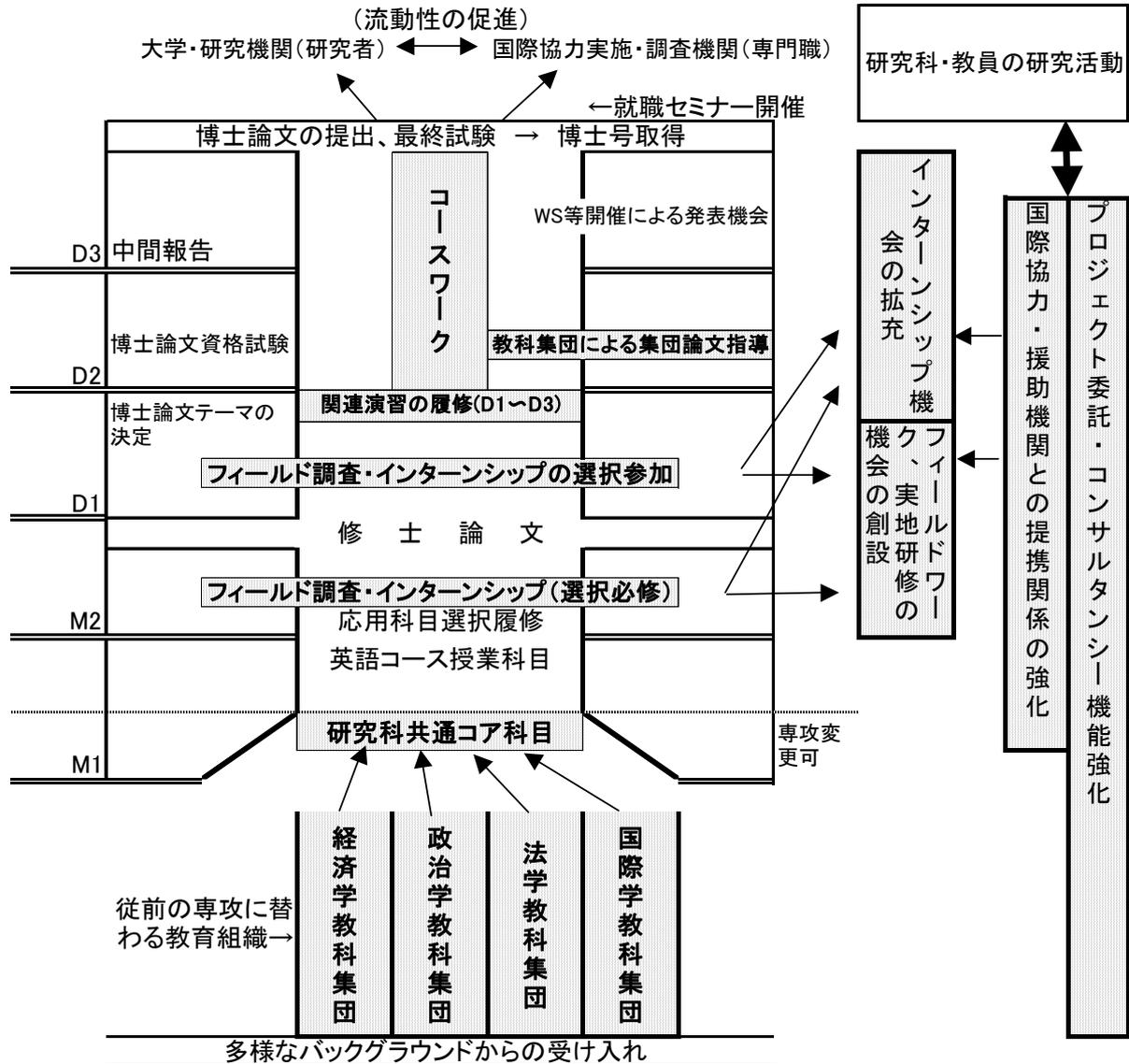
平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	神戸大学	整理番号	a022
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	国際政策学研究者養成に向けた大学院教育		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) その他社会科学系分野を主とする複合分野		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (国際政策学、国際協力論、経済発展、国際機構法、社会開発)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 <small>([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)</small>	(主たる研究科・専攻名) 国際協力研究科・国際開発政策専攻〔博士前期課程〕、同〔博士後期課程〕	研究科長(取組代表者)の氏名 片山 裕	
	(その他関連する研究科・専攻名) 国際協力研究科・国際協力政策専攻〔博士前期課程〕、同〔博士後期課程〕 国際協力研究科・地域協力政策専攻〔博士前期課程〕、同〔博士後期課程〕		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>神戸大学は教育憲章において「人間性」、「創造性」、「国際性」、「専門性」を培うことを宣言している。とりわけ、人類の未来を見据えた地域に根ざした高度な国際性豊かな教育研究の実現をめざしている。この実現をはかるために、神戸大学は「国際交流推進機構」、「学術研究推進機構」、「大学教育推進機構」を設置し、全学として組織的に取り組んでいる。</p> <p>本件教育プログラムは、国際的な諸課題に理論と実践を架橋しながら政策提言できる国際政策学研究者の養成を主眼としており、本学における「国際性」強化に資し、文部科学省の支援を得て設置された「神戸大学国際交流推進本部」を中心とした本学国際連携業務の一端も担う。また、本学は、学術研究推進機構において、部局横断的な先端研究、融合研究と教育を可能にする環境づくりを進めており、経済学、法学、政治学に加えて、工学、教育学、保健学等の教育科目で構成される本件教育プログラムは、分野横断的な大学院教育推進の重要な役割を担う。また、大学教育推進機構と連携して、間接経費を財源とした「神戸大学教育研究活性化支援経費」を設定し、本学の教育研究の改革を推進しているところであり、国際協力研究科の本件教育プログラムの実現は、本学ひいては我が国の国際系大学院全ての大学院教育の実質化をはかり、国際的な高品質を実現するための先導的モデルとして不可欠であると考え、戦略的に支援する。</p>			

機 関 名	神戸大学	整理番号	a022
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>本研究科では、(1) 学部レベルでの専攻を問わず意欲ある有能な学生、留学生、社会人を幅広く受け入れ、知的刺激に満ちた研究環境を創出し、(2) 多様なバックグラウンドをもつ教授陣を揃え、魅力ある授業科目を提供し、(3) 3つの専攻を配置し、それぞれ必修科目や履修モデルを含む教育プログラムを提示し、(4) 英語コース等の設置により外国語による授業、発表の機会を与え、(5)国際協力機構(JICA)等の外部からの業務委託(ラオス/イエメン・プロ・ジェクト)や世界銀行等との協力を通じたフィールドワーク、インターンシップ等の機会を創出するなどして、理論と実践を架橋できる研究者を養成するプログラムを築き、実際にそうした研究者を輩出させてきた。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>本研究科が描く研究者像は、国際協力に関わる理論をその実践と応用を通して実社会に具体的に貢献できる内容に進化させること、つまり実践的な国際政策学を完成できる研究者である。当該研究者は、大学・研究機関と国際協力実施・調査機関の人的流動化を促進し、今後国際社会においてニーズが高まる存在である。本研究科は、この教育理念に基づき、これまでも特色ある教育研究活動を展開してきたが、本教育プログラムを利用して、これら個別の活動を、博士前期課程から後期課程にいたる5年間のコースワークの中に有機的・体系的に位置づける仕組みを考案しそれを制度化して、理論と実践を架橋する教育プログラムの1つのモデルを提供する。</p> <p>そのために、第一に、従来の3専攻に分立した教育体制を大幅に見直し、4つの「教科集団」を中心とし、博士前期課程と後期課程とを連関させたコースワークを開発・構築する。就中、前期課程(学際的で幅広い知識、語学力の向上)と後期課程(フィールドワーク等と連関させた専門的、実践的な博士論文指導)の機能分化と体系化を検討する。第二に、フィールドワークやインターンシップをコースワークの中により明確に制度的に位置づけ、単位化・財政支援等を通じてその裏付けを強化する仕組みを開発する。なお、実習先やインターンシップ派遣先の拡大や条件等について更なる調査を行う。</p>			

6. 履修プロセスの概念図



※ 網掛け: 今次教育プログラムで強化・発展を計画しているもの

機 関 名	神戸大学	整理番号	a022
<p data-bbox="165 199 588 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 488 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 533 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 916 633 949">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 965 1428 1189" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="165 965 1428 1093">・博士前期・後期一貫の体系的コースワークを構築し、フィールドワーク、インターシップを重視した実践的な教育プログラムとしている点は評価できる。また、海外との連携や、教科集団によるコースワークの運営なども評価できる。 <li data-bbox="165 1108 1428 1189">・なお、教育プログラムの実現に向けて、カリキュラムや、運営方法の面で、さらなる具体化が望まれる。 			